

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

## お盆の季節がやって参りました

宝泉寺報も第三号。前年発行開始してからはや一年。早いものです。皆様どのような一年をお過ごしになられたでしょうか。宝泉寺の所属する「臨済宗南禅寺派大本山南禅寺」では本年4月、創建開山南院国師700年の遠忌が行われました。南禅寺の創建当時、自ら土を運び石を曳き伽藍建立にあたった規庵祖圓禅師（南院国師）様のご法事です。三年前から諸々準備を重ね、住職は約10日間京都大本山に駐在し法会の役職に付き、閑栖和尚は檀信徒の皆さんを引率して本山参りを致しました。会期中、東日本大震災の物故者供養をはじめ、授戒会や接心（座禅修行）、御詠歌大会や降誕会（お釈迦様のお



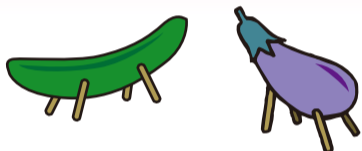
南禅寺三門

生まれになった日）の供養など、沢山の行事が行われ、全国から各寺の檀信徒約5000名が参加し大変盛大に挙行されました。宝泉寺からも20名を超す皆さんに二泊三日で参加して頂きました。厳粛荘厳かつ和やかな雰囲気とても良い経験そして勉強になりました。

本山の行事は数十年に一度ですが、宝泉寺ではこれから夏のお盆に秋のお彼岸、そしてお施餓鬼会と、恒例の行事が目白押しです。本山で勉強した事を生かし、皆さんに喜んで頂けるお寺にすることを目標に、今年も一生懸命精進して参ります。……個人的な目標は、健康と、そのためにダイエットです。一年掛けてがんばります！

### 第1号にも掲載いたしましたがお盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にどうぞ。

- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌香炉燭台花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子（みずのこ）」、椀に清水を満たした「閻伽水（あかみず）」を供える
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そうめん、果物など夏の食物を供えください。



お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！



## 法話

### のコーナー

### もうじきお盆になりますね。

お盆の行事は飛鳥時代には先祖を祀る年中行事として始まっていたそうですから、1400年以上受け継がれてきた日本の代表的な風習です。

生き菩薩と呼ばれた行基和尚は「ほろほろと鳴く山鳥の声聞けば父かとぞ思ふ母かとぞ思ふ」と詠みました。心に哀惜の念が浮かぶとき、山鳥の声を聞いても、つい父を思い出し、母を恋しく思う。誰しも父母無くこの世に生まれたものはありません。そして父母に連なる先祖を持たぬものはありません。「今ここ」にある私は、紛れもなく先祖より、父母より

受け継いだ命を生きているのです。その事に思いを致すとき、大きな感謝の気持ちに満たされる。大事な「み命」を寸分も無駄には出来ぬと、心が定まってくる。それもまたお盆の大きな意味合いであると思うのです。

お盆の時期には亡くなられたご先祖様たちがお里帰りをなさいます。そのおもてなしの為に精霊棚に食物を沢山お供えし、供養の読経をするのです。思えば、今は亡き人の為に何もして差し上げる事の出来ない普通の私たちは、このお盆の時期、久しぶりに亡き人と団らんすることが出来るのです。「新盆や悲しいけれどいそいそと」悲しいことは変わらないけれど、やっと亡き人の為に何かをしてあげることが出来る喜び。もちろん姿形は見えませんが、ご先祖様に対する感謝と畏敬の念を「親しみ」と共に感じる事の出来る、日本人の心の文化はとても素晴らしいものです。宝泉寺では、本年も7月16日午後三時より「盂蘭盆会総供養」を行います。新盆過ぎた方々にはすでにお知らせしておりますが、檀信徒の方ならどなたでもご参加頂けますので、お気軽にお問い合わせください。

さて、お盆の間、皆様にはご自宅でのお参りと共に、お墓参りをして頂くこととなります。そこで「お墓参りの作法」をあらためてご紹介したいと思っております。普段の墓参りでも同じですから、どうぞご参考にさせて頂きたいと思っております。

お墓参りに訪れるときはまず最初に、お寺の本堂のご本尊様にご挨拶をお願いしています。寺院はご本尊様の「聖域」ですから、三門から正面のご本尊様にまず一礼。宝泉寺の場合、霊園と本堂に少し距離がありますので、その場合は霊園管理事務所隣の観音様に御一礼をお願いします。さて、それからお花、お線香、供物、水桶をもってご自分の墓所へ。お花お線香は管理



→事務所で販売していますので、ご利用ください。「お水や荷物を持って階段を登るのが…」と言う方はどうぞ事務所の係員にお声を掛けてください。荷物をお運びいたします。水道は各階段の脇に設置してあります。墓所の前では先ず合掌礼拝してから掃除に取りかかりましょう。古いお花やお線香の燃えかすなど取り除き、雑草、落ち葉をキレイにしましょう。墓石を布や



スポンジで磨き汚れを落として終了です。さていよいよお参りです。新しいお花と水鉢にきれいな水を供え、線香に火をつけ、持参したお供え物を並べます。墓石に水を掛け、清めてから、静かに手を合わせましょう。禅宗では「信心不二（しんじんふに）」といいます。「信心とは仏様と私が向かい合うのではなく等しく尊いものと気づくべし」ということです。私の命はご先祖様から父母を通して受け継いだもの。私の今生きる命も先祖生きた命も仏様の命も等しく尊いことに思いを馳せるのが本当の信心です。日頃忙しい毎日をお過ごしのことと思います。手を合わせ、静かに過ごす時間はとても貴重なものです。どうぞご家族でゆっくりお盆の大切な時間をお過ごしください。



墓参の注意事項

1. ゴミ箱は設置してありますが、枯れ花など以外はなるべくお持ち帰りください。
2. お線香に点火する際は充分注意してください。管理事務所で販売しているお線香は火種がついているので簡単に点火できます。
3. 掃除に使った道具は必ずお持ち帰りください。紛失などの責任は持てません。水道などの公共部分においておくのもおやめください。
4. お供え物は残念ですがお持ち帰り頂き、皆様でお分けください。
5. 植木の手入れや墓石のクリーニングなど大がかりなお掃除、補修などのご用命は管理事務所までお気軽にどうぞ。

※境内、墓地は聖域です。大声で騒いだりなさらぬようお願いいたします。墓地内は使用墓地以外は公共スペースになります。檀信徒同士、気持ちよく大事にお使いください。

## {え} あいうえお用語辞典

縁起 (えんぎ)

縁起を担ぐ、縁起でもない、など私たちも普段使う言葉として定着していますが立派な仏教語。苦しみには必ず原因があり、過去の原因を理解することで、現在の苦しみを乗り越えていこうとする因縁生起（いんねんしょうき）が様々なお経に説かれています。不平不満を言う時はなぜか他人のせいにしてしまうよね？原因と結果は必ず自分の中にあるはずなのですよ。…そう夜中にお菓子を食べるから朝、体重が増えているのです！

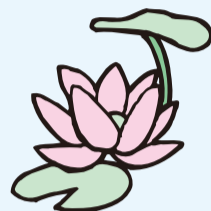
体験的に私たちが知っていることを科学的な側面からお話しくさしました。そしてお坊さん同士の討論会のテーマは「葬儀をどのように考えるか」。全国的にお葬式の形態が大きく変化している、我々葬儀を司るお寺はどのように対応していくべきか、という内容でした。

まず「家族葬」という少人数によるお葬式が増えたこと、「直葬」などと呼ばれる葬儀をしない方法が流行っていることが、議題に上がりました。全国から集まった和尚さんのなかにはちょっとピンときていない方もいらっしゃいましたが、「昔のお葬式とはだいぶ雰囲気もやり方も違ってきている」という意見には皆さんうなずいておられました。たとえば「葬儀社が勝手に進行するのは困る」や「菩提寺に知らせないで火葬して、戒名や納骨はどうするつもりだ」「お通夜の参列者は焼香が終わると出ていってしまう」など。本来の意味での厳粛なお葬儀がなかなか出来ない事へのお寺の不満が感じられました。

実は同じ臨済宗でも地域によって儀式作法は少しずつ違います。その地方に伝わる風習によって、基本的な「臨済宗葬儀式作法」に少しずつアレンジが加わってより親しみのある葬儀が行われています。一昔前は地域でお葬式ができると、地域の世話人的人がやってきて準備や進行をしてくれました。しかし、若い世代の喪主さんたちにとって、地域の結びつきが薄らいだ現在では、「お葬式の準備」は、葬儀業者に任せざるを得なくなってしまう。担当者だって何でも知ってるわけではありませんし、「商売」の側面もありますから、どうしても司式者である坊さんの意にそぐわないことも出てきます。で、「葬儀社というのはけしからん！」となるわけです。でも私は思うわけです。じゃあ葬儀社の人たちと、若い世代の方に「お葬式」や「法事」のことをお寺が教えてあげれば良いじゃないか、と。なぜ亡くなった方をきちんとお送り申し上げなくてはならないのか。そのために儀式を行うことにはどのような意義があるのか。費用はどのくらいかかるのか。適正な価格とはどのくらいなのか。そしてお寺も、本当にご家族に喜んでもらえる仏事とはどういうものなのか、時代と共にどのように変化しているのか知る必要があると思います。

これからの葬式は「家族」「お寺」「葬儀社」が力を合わせて行わなくてはなりません。「坊さん主導」だけではなく、もちろん「葬儀社まかせ」でもなく、亡くなった方とその家族の為に皆で協力して行うことが大事になると思っています。もしもの時の為に互いに勉強し、よく知っておくべきだと思いますし、結局それが互いのためには良い結果になると思います。不況の波の中でご苦勞のある方も沢山いらっしゃいます。お金を掛けなくても、個人に対する感謝と誠意を表すにはどのような準備と工夫が必要なのでしょう。私たちお坊さんの願いは「必ずしも盛大である必要は無いが誠意あるお別れの儀式としての葬儀をして欲しい」と言うことです。

## コラム お葬式 にまつわるお話



毎年二月に、「臨済宗黄檗宗合同研究会」という我が宗派の坊さんによる勉強会が毎年開かれています。京都の妙心寺で二日間、講演と少人数に分かれての討論会という内容で、私も出来るだけ参加しております。今年の講演は、著書「バカの壁」で有名な東京大学名誉教授の養老孟司さん。「親しい人との死別という大きな苦しみを乗り越える為には葬儀式を行うことでキチンを区切りをつけることが効果的」だそうで、

## 編集後記

逃亡犯が捕まりオウム事件に一応の解決。これから真相解明に時間がかかることだろう。「宗教」とは自己を見つめ命を洞察するもの。多くの命を奪い、逃げ続け「自分がわからなくなった」と答えた逃亡犯の依拠するオウムは宗教とは隔絶したものだ。仏教を金と権力を得る手段の隠れ蓑に利用した罪は重い。法の裁きと共に厳しく断罪すべきだと思う。ご意見ご質問などいつでもどうぞ

宝泉寺 042 (661) 3353

ホームページ <http://www.housenji.net/>

E-mail [info@housenji.net/](mailto:info@housenji.net/)

## 霊園管理事務所から 霊園だより

じめじめとした日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

梅雨が明けるとお盆の時期がやってきます。

管理事務所でもお花お線香を用意して皆様をお待ちしております。ぜひご利用ください。皆様の御壮健をお祈り申し上げます。



八王子南霊園 管理事務所 畑山